

地域学習会 in 北本 **生ごみを燃やさないで処理すれば！！** 『活かせば資源、捨てればごみ』

2003年9月20日(土)北本市文化センターにて「ごみを発生場所(家庭等)で処理することへのチャレンジ」というテーマで現在、他のごみと混合焼却されている家庭の生ごみを各家庭で消滅する事ができたなら、どんな事が起こるのか、ごみの収集費は?焼却場の建設費は?生ごみ以外の焼却費は?各家庭に設置する処理機の投資額は?エコ・リサのチームが1年かけて研究した結果を発表しました。(発表内容は44号に掲載されていますので、午前中に行なわれました見学の報告を致します)

北本市立栄小学校エコポット・プロを見学して

学校の中庭に、電話ボックスのように建っていて、子供達が嫌でも目にする場所で、自分達が食べた給食があそこで処理されている、と結びつけて日々感じる事が出来る教育的意味は大きいと思います。臭いがわずかに漂っていますが、それも、無菌、無臭の世界に慣らされた子供達には貴重な経験となることでしょう。



栄養士さんのお話では、かなり悪戦苦闘されたようです。

熱を加えないため、かなり低電力で済むかわり、慣れるま

ではコントロールが難しい、と言う事なのですが、それも貴重な実績になって、これからの生ごみ処理を進めるうえで役立っていくでしょう。私は自宅で発泡スチロールでの「はらっぱくらぶ式」とコンポスターの併用をしています。好気性発酵がうまくいくと臭いがしないこと、順調に減っていくことは、驚くほどで「原理」は同じだと思います。エコポット・プロは大きめの木のチップの中に生ごみは埋没して消滅してしまうようですが、堆肥として花壇などに使えれば、もっといいなぁと思いました。(園田 真見子)



ゴミケシ君の兄貴分

エコポット・プロは小雨の中、きれいな柵に囲まれて渡り廊下の側に立っていました。280万円の本体価格に60万円の設置費というなかなか高価な装置です。

今年2月の設置以来、様々なトラブルに見舞われた由。6月にメーカーがバイオチップの入れ替えに来校した際に「生ゴミ連続投入時の能力は公称能力の70%が業界の常識」と言われたそうです。

これが真実だとしたら、少し怖い業界だなと思いました。多分、まだまだ改良、発展の余地のある装置であり、業界であるというこ

となのでしょうか。今後が楽しみです。(原田 史)

